

午前１０時３０分開会

○春山委員長 おはようございます。ただいまから、デジタル・トランスフォーメーション特別委員会を開会いたします。

欠席届が出ております。桜井委員、地域振興部長が通院のため、環境まちづくり総務課長が公務出張のため、欠席です。

日程に先立ち、改選後、理事者も含めた初めての委員会開催のため、名簿（案）をおつけしております。なお、林則行委員が、６月１３日、公職選挙法第９０条の規定により千代田区議会議員の職を辞したものとみなされ、欠員１名となり、今後は１０名の委員会となりますが、皆様、ご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、名簿の順に従って、まず委員から自己紹介をお願いいたします。

私は委員長の春山あすかです。よろしくお願いいたします。

○おのでら副委員長 副委員長のおのでら亮でございます。よろしくお願いいたします。

○米田委員 委員の米田です。よろしくお願いします。

○岩佐委員 委員の岩佐です。よろしくお願いいたします。

○池田委員 委員の池田です。よろしくお願いいたします。

○西岡委員 西岡めぐみです。よろしくお願いいたします。

○入山委員 委員の入山です。よろしくお願いいたします。

○富山委員 委員の富山あゆみです。よろしくお願いいたします。

○ふかみ委員 委員のふかみです。よろしくお願いいたします。

○春山委員長 ありがとうございます。

委員会開催に当たりまして、千代田区議会委員会条例第１７条に基づき、委員長から議長に申し入れ、小林副区長にご出席いただきました。小林副区長におかれては、お忙しい中、委員会にご出席いただき、ありがとうございます。

それでは、副区長、部長、課長からも、それぞれ自己紹介をお願いいたします。

○小林副区長 副区長の小林でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○夏目デジタル担当部長 デジタル担当部長の夏目です。どうぞよろしくお願いします。

○齊藤デジタル政策課長 デジタル政策課長の齊藤と申します。なお、デジタル推進担当課長も兼務をしております。どうぞよろしくお願いいたします。

○吉田情報システム課長 情報システム課長の吉田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

○春山委員長 ありがとうございます。

常時出席者には丸印をつけております。前期から変更はございませんが、よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○春山委員長 それでは、「（案）」を取って「名簿」といたします。

それでは、本日の日程をご確認ください。申し送り事項について、報告事項が３件です。この日程に沿って進めてまいりたいと思いますが、よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○春山委員長 初めに、日程１、申し送り事項についてです。前委員会からの申し送り事項ですが、お目通しを頂きたいと思っております。よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○春山委員長 それでは、日程2、報告事項に入ります。最初に（1）令和7年度区民参加型デジタルプロジェクトについて、理事者からの説明を求めます。

○齊藤デジタル政策課長 それでは、政策経営部資料1でございます。令和7年度区民参加型デジタルプロジェクトについてをご覧ください。

こちら、概要でございますが、地域が主役となり、地域の課題をデジタル活用で解決するといったことを目的に、区民参加型のデジタルプロジェクトを、令和6年度、昨年度から開始してございます。昨年度は区民等からアイデアを募集いたしまして、区政に活かすデジタル活用提案制度を実施いたしました。こちらについては資料番号1-2ということで、参考で別添で概要をおつけしてございます。内容については後ほどご確認を頂ければと思います。資料1に戻りまして、今年度でございますが、ワークショップの形でアイデアを練り上げまして、区に提案する形での実施を予定してございます。

実施のイメージですけれども、対象として、ある程度デジタル技術に慣れ親しみ、かつ先入観なく新しい発想を建設的に提案ができると、こういったことを企図いたしまして、区内在住の中学生を対象に公募してございます。15名程度での実施を予定しております。デジタル技術による行政課題へのアプローチ方法、こちらのイメージをまず持っていただくということを目的に、最新のDX技術の見学・体験会なども実施いたします。その後、区が設定するテーマに対してワークショップ形式で話し合いを行いまして、プレゼンテーションを実施していただくと。その内容については区において受け止め、今後の事業実施における参考とする予定でございます。

具体のスケジュールでございますけれども、6月5日から7月24日まで、もう既にですけれども、公募のほうを始めてございます。広報はじめ、SNS、ポータルサイトなどで周知をしております。その後、8月から10月にかけて計3回実施をいたします。初回の8月についてはDX技術の見学・体験会。その後、9月についてはワークショップ1回目。第3回目、10月はワークショップ2回目ということで、こちらで区への提案を受けるという形にしてございます。ワークショップ以降、その提案については、区の事業への反映を区において検討をしていくということがプロジェクトの予定となっております。

資料1についての説明は以上となります。

○春山委員長 説明が終わりました。委員からの質疑を受け付けます。

○西岡委員 ありがとうございます。まさに一般質問でもさせていただいたところで、これ、予算は全然ついていないというところだったかと思うんですけれども、今後この成果が出たときに、海外に、ちょっと飛び過ぎだけど、そういう見学に行ったりとか、そういう拡充というのは考えていらっしゃるんですか。

○齊藤デジタル政策課長 まず予算の件なんですけれども、こちら、令和7年度予算といたしまして1,100万円の予算がついてございます。このプロジェクトの企画ですとか、運営、伴走支援ということで予算を計上してございます。

2点目、海外のお話がございました。こちらは本会議の中でも夏目よりご答弁申し上げましたけれども、海外研修という形での実施につきましては、どこに行くかということに加えて、誰を選ぶか、また費用負担をどうするか、効果測定をどうするかなど、もろもろ整理すべき課題もあるところでございますので、こういった組合せが最大限に効果を

発揮するのか、場合によっては試行という形も視野に入れつつ、実施の方法を検討してまいるという所存でございます。

○西岡委員 やっぱり最先端の技術に触れるってすごく大事なことだとは思っているんですけど、1,100万円、今年度だけでついているということは、もう少しこの展示会に行ったりとかワークショップをしたりというだけではなくて、また少し幅を広げることもできるのかなと思うんですが、この人数も含めて、この辺については、15名で今年度はやるというところで、どういうふうに回収していくのか。その辺も含めて、この在り方というか、これが私はすごくいい取組だと思っているんですね。1回目は18歳以上の区民対象ということでしたけれども、中学生を対象としているというところで、ちょっと残念ながら、子ども部とは連携をもととしていなかったと思うんですね。子ども部さんはご存じなかったの。そこも含めて、ちょっとどういう見通しになっているのかというのをもう一度改めてお願いいたします。

○齊藤デジタル政策課長 今回、中学生を対象に、15名という規模での実施でございますけれども、デジタルの分野でございます、デジタルの技術も日進月歩で進んでいく中で、デジタルネイティブとも言うべき世代である中学生からの柔軟な発想をこのたびは頂戴したいということで、中学生を対象としており、また15名という規模も、プロジェクトの中では視察なども組み込んでございますので、そういった安全面、体制面を考慮しまして15名という規模での実施としてございます。

こちらはなかなかプロジェクトの効果という部分では測定というの難しい面はあるんですけども、実際に提案を受けた中で、それを事業化していくといったときに、その事業としてどのような効果が出ているのかと、そういう側面では測定もできるとしておりますので、そういったところもスコープに入れながら、実施の方法については検討してまいりたいと考えてございます。

○西岡委員 子ども部との。

○春山委員長 うん。答弁漏れ。西岡委員の質問の要点は多分、この政策にどう生かしていくかという視点だけでなく、教育視点を含めてどういうふうに連携していくのかということについて、今後どう検討していくのか……

○西岡委員 子ども部……

○春山委員長 検討する可能性があるのかということも含めて、子ども部との連携も併せてお答えいただけますか。

○齊藤デジタル政策課長 大変失礼いたしました。今回のプロジェクトについては、あくまでデジタル分野ということで、デジタル先行で進めてはおったんですけども、今後、やり方でございますとか、あとは今回のプロジェクトの成果を子ども部のほうにフィードバックするなど、そういった形での子ども部との連携というのはあろうかと思っております。

○西岡委員 まあ、いいや。はい。お願いします。

○春山委員長 米田委員。

○米田委員 質問させてもらいます。これ、募集方法や選定方法、前にあったかも分からないですけど、改めて、こういった選定方法になっているかお聞かせください。

○齊藤デジタル政策課長 現在募集をかけてございまして、仮に予定人員15名を超えた

場合には、募集の中に、志望動機ですとか、あとご自身の興味のある分野ですとか、いろいろエントリーシートにはご記入を頂くことがございますので、そういった内容を参考に選定のほうを行っていきたいと考えてございます。

○米田委員 これ、選定委員は、決められるのは、さっき西岡委員ともあったんですけど、しっかり教育の部門の担当の方とか、選定委員について、何名か、こういった方かというのもお聞かせ願えますか。

○齊藤デジタル政策課長 本日現在におきましては、選定はデジタル政策課において行う予定としてございます。ただ、本日のご意見等もございますので、進め方については検討を進めたいと思ってございます。

○米田委員 しっかり教育委員会とも連携しながら選定していただきたいなと思います。これは提案しておきます。あと、教育委員会としっかり連携していないというのは、ちょっと西岡委員のところでも残念だったんですけど、今後進めていく上ではしっかり僕は進めていくべきだと思っておりますので、これは意見として言うておきます。

あと、せっかく中学生がやっていただいた意見ですので、今後予算化されていくということなんですけど、予算化するに当たって、1,100万とございましたけど、これは委託で1,100万なんですよ、まず。委託業者の中で、で、予算化するに当たっては来年度予算ということによろしいんですよ。

○齊藤デジタル政策課長 予算化の時期につきましては、提案の内容にもよるかと思ってございます。例えば予算の規模ですとか、あとは規定の整備が必要なのかですとか、内容によって時期は少し変わってくるかなとは思ってございます。

○米田委員 そのときにはまたしっかりご報告いただきたいなと思います。

今後の展開なんですけど、今回は中学生なんですけど、小学校とか中学校、今回は中学なんですけど、高校生とか大学生、こういったところの連携は今後、今後ですよ、今年度は中学生なんですけど、内容によりけりだと思うんですけど、考えていらっしゃるのか、お聞かせください。

○齊藤デジタル政策課長 このプロジェクトの在り方、中学生を対象にしたものが唯一絶対ということでは当然ございません。やっていく中でいろんな試行をして、よりよいプロジェクトにしていくことを念頭に置いて進めてまいりたいと思っております。

○米田委員 今後、今回は中学生なんですけど、せっかく若者世代とやるんで、今後の区政のために考えると、子ども会議とかそういったところに、教育機関と関連して、区政提案も含めてプラットフォームをつくっていくというのも一つの方法だと。せっかく若者を使ってやるんで。その辺の考えについてはあるかどうか、お聞かせください。

○齊藤デジタル政策課長 今年は中学生を対象にということで、若者ということではあるんですけども、対象をまた今後も若者にしていくのか、それとも間口を広げていくのか、そこも在り方の検討が一つあるかと思ってございますので、それに沿って適切に効果が出るようなプロジェクトにしていきたいと考えてございます。

○春山委員長 富山委員。

○富山委員 今、申込み開始から3週間以上たっているんですけど、現在の申込み状況と、区内在住の中学生にという、対象にということなんですけど、例えば区立中にやったりとか、そういうのがあったら教えてください。

○齊藤デジタル政策課長 本日時点では5名の参加者からご応募を頂戴してございます。区立をはじめ私立の方ですとか、様々な学校から申込みを頂いているところでございます。

○富山委員 ありがとうございます。これが、恐らく今5名で、ゼロじゃなくてよかったなと思うんですけど、まずこの3日間拘束されて、そしてずっとメンバーが一緒というのは、最近の中学生ももう忙しいと思うので、3日間拘束されるというのは1個ハードルになってしまうと思うんですけど、この2日目、3日目を、デジタルネイティブ世代を対象にしているからこそオンラインにしたりとか、そういうのは考えられていないんでしょうか。お願いします。

○齊藤デジタル政策課長 そうですね。現時点では、オンライン開催というのもやり方の一つとしてはあろうかとは思いますが、今回、各ワークショップのグループにはファシリテーターを置いてグループワークを進めていくということも想定しておりまして、直接の対面の形で、顔を合わせながらの実施を予定してございます。

○富山委員 3日間にした経緯というのも教えていただきたいんですけど、この3日間確保しなければいけないというのは結構ハードルが高いと思うので、それについての経緯を教えていただきたいのと、じゃあ、今回、中学生を対象に、今後、どう在り方を、どんな在り方をするかも考えていくとおっしゃっていましたが、今回、中学生を対象にしているんだからこそその取組というのはされるんでしょうか。もちろん見学会、体験会とかワークショップとかも、デジタル施策について考えるいい機会だとは思いますが、今回、中学生のデジタルネイティブ世代だからこそできることというのは、何かされるんでしょうか。

○齊藤デジタル政策課長 まず3日間に設定した理由でございますけれども、中学生はまだそれほど行政の課題へのアプローチについては明るくない部分もございまして、まずはワークショップ前にイメージを持っていただくことが必要であろうかと思ってございまして。そういう意味で、1日、視察、体験・見学会を設けました。その後、ワークショップとして議論をまとめていく中で、なかなか1日ではまとめ切れない部分もあろうかと思ひまして、2日間のワークショップの設定ということで、計3日間の設定としてございます。

2点目の中学生ならではの部分ではあるんですけども、基本的には中学生の持っている柔軟な発想、若い感性を、区にぜひ力を貸していただきたいという点が1点と、あとは、こういった若いときからこういった政策形成過程に触れるということで、区政への関心を高めたりですとか、そういった部分も企図して、中学生としているところでございます。

○富山委員 ありがとうございます。今おっしゃっていた内容は、やっぱりあんまりデジタルネイティブ世代に特化している内容ではないかなと思っております。中学生だから行政などに疎いということももちろんそうかもしれないんですけど、DX、デジタルプロジェクトの中でやっていくのには、この3日間を用意して、まず行政のことを知ってもらってからデジタル技術をとというのは、やっぱりむしろ展望を狭めるための施策を用意しちゃっているみたいなふうにも感じますので、今後は、まずこの3日間の開催ということも検討していただきたいし、より広い視野で考えていただくためにも、オンラインだったりバーチャルだったりというのを入れていただきたいなと思います。行政でどんなことができるのかというのをやるためにも、今回の、今まだ5名ですけど、より多くの中学生

などに今後もアプローチしていただければと思います。お願いします。

○齊藤デジタル政策課長 そうですね。まだ募集期間も1か月弱あるところでございますので、ここからねじを巻き直して、広く中学生にアプローチのほうをしてまいりたいと思っています。

○富山委員 お願いします。

○春山委員長 ふかみ委員。

○ふかみ委員 こういった参画型のプロジェクトが例年行われるようになっているのを、すばらしい取組だなと思います。

令和6年度の区民参加型デジタルプロジェクト（デジタル活用提案制度）についてご質問させていただきます。

実は私もこれ、去年9月に応募しておりまして、ボランティアの4名とけんけんがくがく議論して提案させていただきました。これについてなんですけれども、こういった参加型をしていくときに、インセンティブ設計と、それから参画だけではなく、こういった参画を通して区民の方々と信頼関係を築けるような設計がとても大切なと感じております。

例えばここ、私が提案した内容であるとか、全体、ここで数字的には1,669票あったここに記載されておりますけれども、こういった分布であったかとか、自分の意見が少数派であったのか多数派であったのか、こういったものを見える化するだけで、全ての人の声が公平に扱われているんだなというふうに感じることができると思います。また、アクションにつながったのであれば、そういった報告をされることによって、自分の施策がきちっとつながっていくという実感を得られることも、意思決定とその根拠が明確になり、皆さんの信頼を得られることになるかと思います。

また、インセンティブなんですけれども、これが施策に、プロジェクトとして進むのであれば、ワークショップに参加できるであるとか、それから実証実験に参加できるなどの……

○春山委員長 ふかみ委員、令和6年のはあくまで参考なので、本日、令和6年を受けて令和7年のプロジェクトにという視点で、令和7年の今回の説明につながる形で質疑していただいても。

○ふかみ委員 もちろんです。そういった、こういった参画型のプロジェクトに関しましては、こういったインセンティブ設計であるとか、それから信頼関係、参加だけではなく、区民との信頼のある対話ができるような設計というのが非常に重要だというふうに思っております。そういったところの検討がされているかについてご質問をさせていただければと思います。よろしいでしょうか。

○齊藤デジタル政策課長 現時点におきましては、この区民参加型デジタルプロジェクトについて、何かインセンティブを付与するような設計にはなってございません。今後ということではありますけれども、公民連携の仕組みなども区では持っておりますが、そういったものを活用していくのか、もしくは契約の原則にのっとっていく必要があるのか。そこは内容によってかなとは思っておりますので、インセンティブの付与という選択肢を排除しないような形で、何かしらの検討というのが進めていければいいかなとは思っております。

○春山委員長 デジタル担当部長。

○夏目デジタル担当部長 私のほうから、今の答弁のほう、補足をさせていただきます。

ふかみ委員から昨年の取組もありましたので、ちょっとその説明も含めてなんですが、インセンティブになるかどうかというのはちょっと分からないんですが、昨年1,669票、これは1人3票までということで入れられますよ。で、延べ1,669票ということで、投票結果のほうも公表させていただいております、その辺をまず、上位のほうだけですが、そういった意味でインセンティブになるのかどうかというところではありますが、そういった取組もしております。

それから、信頼関係の構築というか、その面で言いますと、やはり提案いただいたものをただ提案で終わらすだけではなくて、区政のほうに活用していくということで、そういうお約束ということで進めてきた経緯があります。ですので、全くそういった取組をしていないわけではなくて、今回の今年度の取組に関しましても、子どもたち、中学生のほうに、ワークショップという形でいろいろ考えていただいて、区政に反映可能なものは反映していくということで、そういった取組を通じて信頼関係の構築にも努めていきたいというふうに思います。

○ふかみ委員 すみません。参考資料のほうが載っていたのは、継続的な活動だということと載っていたと思うんですけども、これに関してご質問させていただくというのは問題でしょうか。

○夏目デジタル担当部長 我々のほうからお答えするとすれば、メインは今日、今年度の取組ということでご報告いたしましたので、そちらのほうでということではあるかと思うんですが、資料としてお出しいただいておりますので、答えられる範囲ではお答えはしたいというふうに思います。

○ふかみ委員 ありがとうございます。

○春山委員長 ほかにございますか。

○池田委員 これ、何人かの委員からも指摘があるんですけども、子ども部との連携ができていないというところで、募集要項も今確認をしているんですけども、あまりこれ、今5人ぐらいの募集があるということでしたけれども、あと1か月余でかなり膨れ上がったときに、どういう選定になるのかなというのは非常に興味深いんですけども、あまり募集、申し込みを、内容の時点では、どこで比較をするのかなというところは非常に、なかなか比較、選定をする材料が見当たらないぐらいな募集要項なんだけれども、その辺りはどのようにお考えでしょうか。

○齊藤デジタル政策課長 お申し込みいただくに当たりましては、このプロジェクトに参加する志望動機などを作文という形でご提出を頂くことになってございます。そういった中で、プロジェクト参加への熱意ですとか、そういったものを選定の基準として対象者を選定していく予定でございます。

○池田委員 この選定委員の中でも、デジタルの所管でしか選ばないということで、様々、今、もう中学生は授業でもこういう形でやっていたりとか、そこは私立区立かわらず関わっていることですから、どこまで興味のあるなしというのはいろいろあると思うんですけども、そのところはしっかりと、子ども部関係の教育現場の方々を踏まえないで選定をするというところは、あくまでも何か一方的にそちらのほうの主に合うような生徒をピックアップするのかなというようにも感じ取れたものですから、そのところは、せっか

くこれ、初めて、初年度の予算でやるということなので、ワークショップの中身についても、会社訪問だったりとか、その後にファシリテーターがいて誘導されて、なかなか皆さん子どもたちがどこまでこの参加をして達成感が出てくるかというところは、まあ、やってみないと分からないとは思いますが、その辺りはどういうふうにお考えでしょうか。

○齊藤デジタル政策課長 選定については先ほどもご意見を頂戴しているところでございますので、選定の方法については子ども部との連携を視野に検討したいと考えてございます。

また、2点目の中学生がどこまで提案をということではあるんですけども、そこについては、視察などでイメージを膨らませた上で、ファシリテーターも入れて議論を進めていく予定でございますので、区が伴走の下で提案の形まで持っていけるものというふうに想定して実施いたします。

○春山委員長 よろしいでしょうか。

西岡委員、池田委員、米田委員、富山委員からも、教育視点で中学生を対象にしたところが、どういうふうに教育視点でも効果があったのかなり、今後の在り方の見直しにおいて拡大していくことも含め、子どもたちがどうこのデジタル、政策提案に参加していくのかというところが、すごく皆さん、すごくいい取組なんだけども、今後の展開についてきちんと分析、検証、子ども部との連携というのを、委員会のほうに報告をちゃんとしていただけたらと思います。

○夏目デジタル担当部長 各委員の方々から、子ども部との連携について様々ご意見を頂きました。正直我々その点の意識が足りない部分があったかなと思っております。今お話をいろいろ聞いておまして、やはり我々自身が学校におけるデジタル活動だとかICT教育の状況、それを理解しなきゃいけないなという、そこは最低限必要だというふうに思いました。

また、今回のワークショップの開催に当たっては、例えば九段中等教育学校には情報科の先生もいらっしゃるということで、中学生の年代のデジタルの感覚、そういったものについても、我々が理解するためにアドバイスを頂いたりとか、そういった連携も必要かなというふうに思いました。

また、中等教育学校では、本会議のご質問、西岡議員からも頂きましたけども、シリコンバレーの取組ということで、非常に有意義な取組をしているということで、こういったことを参考に、今後の事業の糧にするということも必要だというふうに感じております。

今後、まずは子どもたちに千代田区のデジタルの現状を知ってもらうということも大事ですが、今後を考えていけるような取組のほうにもつなげていきたいと思えます。ご指摘いただきましたことにつきましては、今後のデジタルの特別委員会のほうにもご報告をさせていただきますければと思います。

○春山委員長 はい。ほかによろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○春山委員長 それでは、日程2、報告事項に入ります。

休憩します。

午前11時01分休憩

午前11時01分再開



○春山委員長 委員会を再開します。

桜井委員が通院が終わり、今からご出席いただいております。

それでは、改めて、日程2、報告事項に入ります。最初に（1）令和7年——ごめんなさい。間違えました。すみません。次に、（2）ワークプレイス変革に向けたオフィス整備の実施について、理事者からの説明を求めます。

○齊藤デジタル政策課長 それでは、政策経営部資料2-1、ワークプレイス変革に向けたオフィス整備の実施について、こちらをご覧ください。

今年度、6階、この整備においてパイロット整備という位置づけでございますけれども、6階について整備が始まっていきまして、今後、全庁的にワークプレイスに向けたオフィス整備が本格化をしていくところでございますので、本日ご説明を差し上げたいというところでございます。

まず概要でございますけれども、この取組の背景といたしまして、国全体として少子高齢化等に伴う労働力不足が見込まれているところでございまして、これは千代田区においても例外ではございません。また、DXの進展によりまして、働き方の多様化ですとか働き手の価値観の多様化というものも日々進んでいるところでございます。そのような中、自治体の業務も働き方について大きな転換期を迎えているという認識でございます。

そのような中で、この整備の目的といたしましては、従来の一律的な労働環境を変容させまして、個々の能力や特性を最大限に生かせる環境を整備する。そして、課題解決型のこれまでどおりの定型的な業務から、多様な住民のニーズへ対応できる価値を創造していくような、そういった業務へのシフトを企図いたしまして、オフィス整備を実施してまいります。

具体的な整備のイメージでございますけれども、例えば執務室、執務エリアでは、机ごとのこの袖机、こちらをなくしまして、原則グループアドレス化を実施してまいります。また、フロアには、執務エリアのほか、コラボエリア、来庁者対応エリアなど、フロアに複数のエリアを配置する予定でございます。なお、コラボエリアというのは、いろんな部署の方がそこに集まって、何か対話の中で新しい業務が生まれてきたりですとか、そういったことを企図してつくるエリアのことを指してございます。また、各フロアのレイアウトでございますけれども、各部署の業務内容に応じた最適配置となるように、フロアごとに検討を進めてまいります。また、今後も働き方が変容していくことを見据えまして、柔軟なレイアウト変更を可能にする可動式の什器、こういったものを主に導入していく予定でございます。

こういったことによって、デスクですとか、あとは紙、こういったものにとらわれた従来の働き方を見直しまして、職員自らが業務内容に合わせて働く場所を選択できる、そういった環境を整備してまいります。これにより、職員が一人一人業務を能動的に捉えまして、集中して働きたいとき、少しこの他部署とコラボレーションしながら働きたいとき、いろいろございますけれども、そういった中で最適な職場を自分が選んでそこで仕事をする。そういったことで効率的な業務執行を支援していくという予定でございます。

整備のスケジュールでございますが、6階、この全体的な中でのパイロットとしての位置づけでございますが、今年、令和7年度に整備を実施いたします。その後、4階・5階、2階・3階ということで、年度をずらしながら、令和9年度までに本庁舎の整備を実施し

てまいります。また、本庁舎に存します例えば会計室などの空間的に独立しているエリアでございますとか、あとは本庁舎の外にございます出張所などの庁外職場、こういったものについては個別にスケジュールを調整しまして、いずれも令和9年度末までには整備を実施する予定としてございます。ただし、今後、移転の予定が具体にあるなど特段のある職場については、整備の対象外とする予定でございます。

4、ガイドラインということで、この整備を進めるに当たって、具体的実務的な部分を庁内に浸透させることを企図いたしまして、ガイドラインを策定いたしました。本日は資料番号2-3という形でご提出をしておりますが、こちら、内容としましては、本当に実務的な整備の進め方でございますとか、あとは各エリアの使い方のコツのようなものをまとめたものでございまして、ボリュームがもうございますので、本日はその概要でございます資料2-2、こちらで説明を差し上げたいと思います。

資料2-2のほうをご覧ください。こちらが整備ガイドラインの概要でございますけれども、実は中身としてはおおむね2-1で説明をしたものでございます。特にご覧いただきたいのが、紙面の中段、「具体的な取り組み内容例」でございますけれども、多機能な什器の導入ということで、可動式の什器を選定して、多様な打合せ、集中など、多様な使い方ができるような整備を行っていく予定でございます。また、レイアウトについては各部門の業務内容に応じたレイアウトにしていく予定でございます。

また、こういったエリアを創出するに当たっては、庁内に存する紙文書、こちらの廃棄が前提となってございまして、文書の電子化なども並行して進めていく予定でございます。そうしたことによって、グループアドレスの導入ですとか、これまでにない新しい働き方を実践していくこととしてございます。

こういった取組によって期待される効果でございますが、職員の生産性の向上、ひいてはそれによる区民サービスの向上、そして、こういったオフィスにすることによって、若者に選ばれる、つまり人材の確保に資する職場をつくっていくと。こういったところを期待して整備のほうを進めていくものでございます。

本件説明については以上となります。

○春山委員長 説明が終わりました。委員からの質疑を受けます。

○富山委員 説明ありがとうございます。時代の変化、需要にのっとって、フレキシブルに変化できるのはすごくいいことだと思います。ただ、先ほどから窓口業務の変化とか区民のニーズに対応できるとか、ちょっと抽象的な言葉が多いので、今後窓口がどうなっていくとか、中の業務がどうなっていくかという予想を教えてくださいませんか。

○齊藤デジタル政策課長 大変失礼をいたしました。まず窓口業務につきましては、現在、区としては様々な申請、手続をオンラインで進めていけるように、手続オンライン化を精力的に進めているところでございます。それによって、将来的には、行かなくても済む区役所というのが将来像の一つとしてございまして、オンライン化の進捗とこの整備と兼ね合いを見ながら、窓口の規模などについては検討していきたいというふうに考えてございます。

えー、2点目が……

○富山委員 窓口だけでなく、その中の業務とかもどうなるのか。

○齊藤デジタル政策課長 失礼いたしました。中の業務につきましては、これまでのよう

に職員が決まったデスクで決まった同僚と、ということではなくて、基本的には業務の内容に応じて働く場所を選べたりですとか、あとは他部署の職員とも同席をして、そういったところでコラボレーションを生んでいく。そういった中で新しい価値を生み出していく。そういった働き方になっていく予定でございます。

○富山委員 ありがとうございます。恐らくおっしゃるとおり、窓口業務は減っていったりで、この他部署とも連携がしやすくなることで、すごくいいことだと思います。今後、今現在、窓口業務というのは、オンライン申請が始まっていたりして、ちょっとずつでも減っていているのかということと、結局、この後、何年かかるか分かりませんが、窓口業務自体も、もしかしたらＡＩだったりアバターだったりができるという未来も想像できるんですけど、そういったものに向けての取組とかはされるのでしょうか。

○齊藤デジタル政策課長 そうですね。今、オンライン化のほうは着実に進んでおりまして、庁内で３００程度の手続が、区のポータルサイトですとかその他システムなどでできるようになってございます。利用数としては着実に伸びているところではございます。

もちろん今ご指摘のあったとおり、窓口業務そのものをＡＩ化していくですとか、そういったことはデジタル化の一つ最たる例だとは思っておりますし、そういったことも検討の視野には入れながら検討のほうは進めていきたいと考えております。

○富山委員 お願いします。

○春山委員長 ほかにございますか。

○ふかみ委員 こういった一資料を読まさせていただきました。すばらしい取組だなと思いました。一つ提案なんですけれども、情報共有ツールですよね。タッチパネル型の大型モニターのような活用、これによって区のデータとかエビデンスを視覚的に共有することができますので、タッチパネルによって好きな情報を取り出してこれるようになると思うんですけれども、こういった誰もが情報にアクセスができるようになって、しやすくなることによって、ファクトベースでの建設的な議論ができるようになるのではないかなと思っております。もう既に設置されていると思うんですけれども、プロジェクターやホワイトボードなど共有ツールの整備、議論用の資料や図解がないまま議論が進みますと、声の大きい方が採用される意思決定の偏りなどが起こってくるかと思っておりますので、こういった情報共有ツールの設置というのは非常に重要かなというふうに思っております。ぜひこういったところも検討いただけるといいかなと思いました。いかがでしょうか。

○春山委員長 ふかみ委員の質問を確認させていただいて、職員の方々の働くスペースだけじゃなくて、区民との接点というところの質問でしょうか。それとも職員の方々同士で共有するような、そういうデジタルツールということですか。

○ふかみ委員 はい。

○春山委員長 ワークプレイスのレイアウトであったり、家具だけではなくて、そういう新しい共有のツールについて検討されているのかというご質問です。

○齊藤デジタル政策課長 そうですね、今、千代田区においては、例えば生成ＡＩの導入であったりですとか、いろんなデジタルツールの導入を進めていて、そういう意味では、職員がそういった中で同じデータをすぐに参照しながら議論とかができる環境づくりが今進んでいるという認識でございます。その中で、例えば何でしょう、タッチパネルのような形を取るのかどうかというのは、ちょっとそこは選択の問題かなということはあると思

うんですけれども、今もう会議室ですとか打合せスペース、ディスプレイを置くことがほぼほぼフォーマット、標準化にはなっていてございまして、そうですね、議論が進みやすい環境づくりというところでは、引き続きこういったワーク整備、ワークプレイス変革、オフィス整備と併せて検討を進めてまいりたいと思っております。

○春山委員長 西岡委員。

○西岡委員 ちょっと1点だけ確認なんですけど、ソフト面というよりは、これ、整備のイメージとかレイアウトの変更とかということで、この全体的なコストってどのくらいかかるんですか。

○齊藤デジタル政策課長 これは本当に試算の域を出ないという答えにはなってしまいますけれども、いわゆる整備費用ですね。什器の入替えですとか配線工事ですとか。こういったもので、おおむね4億ないしは5億程度を現状見込んでいるところでございます。

○西岡委員 ちょっとごめんなさい。比較ができないんですけど、やっぱり今、民間でも、または近隣区、ちょっと規模は違うとは思いますが、このくらいやはりかかるものですか。これは何フロア分になるんでしょうか、ちなみに。

○齊藤デジタル政策課長 本庁舎におきましては、5フロア分に加えて、例えば8階にございます会計室など、そういった個別エリアも含めた形でおおむね4億円程度、あとは庁外職場についておおむね1億円程度、合計で5億円程度という、これは本当に試算の域を出ないという、ちょっと重ねてにはなってしまいますけれども、そういった数字となっております。

○春山委員長 米田委員。

○米田委員 今のところなんですけど、試算で4億、5億、四、五億かかると簡単に言っていますが、現在の流れではそういった事務所になっていくというのは仕方がないと思うんですけど、これ、デジタル課だけでやっていくわけですか。

○齊藤デジタル政策課長 このオフィスレイアウトを決めていくに当たりましては、各部署から人を募りましてPTを立ち上げておりまして、そういった中でこういったエリア配置が最適なのかというのを議論しながら、デジタル課と各部署と連携の上で進めていってございます。

○米田委員 そういうことだと思うんです。何でかという、トップダウンだけでも駄目ですし、やはり働く方からの考えが大事だと思うので、ボトムアップも必要だと思っております。

このPTのメンバーというのは、十二分に人数はいらっしゃるという認識でよろしいんですか。

○齊藤デジタル政策課長 各フロアに存する課から最低でも1人以上は参加をしてございまして、フロア整備には十分な体制と認識をしております。

○米田委員 各課1人だったら僕はちょっと寂しいかなと思うんですけどね。十分だと言われてもちょっと困るんですけど。やっぱりこれだけの費用をかけるわけですから、しかも区民サービスの向上につながるオフィスにしていけないといけないので、そういうところはしっかり区民も含めて意見聴取しながらやっていくべきだと思うんですけど、いかがですか。

○夏目デジタル担当部長 ワークプレイス変革ということで、最たる目的はやはり区民サ

ービスの向上ということです。先ほちょっと今のご質問にお答えする前に、比較の問題というお話があったかと思うんですが、ちょっと今、数字を持ち合わせていませんが、東京都のほうで先行してやっております、いずれまた次回以降また詳しくご説明できればと思いますが、そこまで大きな差がないというふうな認識です。

今回このオフィス、ワークプレイス変革を進めていくに当たって、区民の声をということなんですが、まず我々のほうでこれまで内部で検討してきて、区民の声をどういうふうに反映させるかというところで、当然我々の働くスペースを変えていくんですが、当然区民のスペースについて我々は考えていくということで、そういうところに区民のご意見も当然取り入れていきたいなというふうに考えております。トータルで区民サービスが向上するような取組を進めていきたいと思います。

○春山委員長 今、様々な委員からご意見があったと思うんですが、こういうふうなワークプレイスを変えていく、生産性を向上していく、区民サービスへ還元していくということは、とても皆さんが大事だと思われるという前提だと思うんですが、コストがかかるということと、それだけの税金を使うというところで、今、総勢PTは何人ぐらいいらっしゃるのかと、今後その効果であるとか生産性の向上であるとか、働きやすい職場になったかというような意見を、どういうふうにフィードバックするなり分析するなり委員会に報告するなり、または、スケジュールが三つに分かれていると思うんですが、途中での修正なり改善、効果があったところをどう増やしていくのか、なかったところを検証していくのかという、その辺りの進め方についてちょっとご確認させていただけますか。

○齊藤デジタル政策課長 PTにつきましてはフロアごとに設置をしてございまして、ちょっとすみません、細かな人数まではということなんですけれども、6階のPTにおいては、たしか20名程度の規模で実施していたかと認識してございます。

この整備の効果測定という部分につきましては、なかなか手法として難しいというか、悩ましいところはあるかと思ってございます。というのが、この整備の目的というのが、例えばコラボレーションを生んでいくですとか、あとは生産性を高めていくですとか、人材確保につなげていくということなんですけれども、こういった目的の達成度合いを測るのが効果測定だとすると、なかなかそういったところを定量的に判断するのも難しい部分があるのかなとは思ってございます。ですので、あくまで定性的な評価として、例えばアンケートですとか職員の声を取った上で、よりよい整備につなげていくというやり方が、一つとしてあろうかなとは思ってございます。

また、整備を進めていく中で、それぞれの整備をどう有機的に連携していくのかというお話だったと思うんですが、まずは6階をパイロット整備という形で実施いたしまして、そこでの使用感ですとか、それこそ先ほど今まさに申し上げたアンケートなどが参考になるかと思いますが、そういった中で声を集約いたしまして、その次の整備のレイアウトに反映させていく、などを考えてございます。

○春山委員長 はい。ありがとうございます。

ほかにございますか。

○岩佐委員 この本庁舎を先にやるということなんですけれども、今年に富士見の出張所が改修に入る中で、そういったいろんな改修のスケジュールとは全く個々に発動されてい

と思うんですが、庁外の建物については、結局本庁舎が全部終わってからまたやるんでしょうか。それとも、そこはそことして、それなりにPTが行くのかということと、それからチームに各部署から1人と、行っている感じなんですけれども、庁舎全体として、障害のある人が、様々な障害があるんですけれども、働き方として、こういうちょっとカームルームがあったほうがいいよねとか、そういう、もうちょっとこちら辺は動線として取りにくいから、もっと動きやすいようにみたいなことを言えるような人がチームに入っていたきたいと思うんですけど、その状況はどうなっていますか。

○齊藤デジタル政策課長 今、富士見のところを具体的に挙げていただいたんですけれども、そのようにもう既に整備を進めているところでございますとか、今後移転を予定しているようなところ、そちらについてはこの整備の対象外というふうに整理をさせていただきます。なので、そういったところの整合を図りながら、令和9年度までに整備のほうを進めていくということにさせていただきます。

2点目に、ちょっと全体としてということなんですけれども、そういう意味では我々デジタル政策課のところで、レイアウトの整備について伴走支援のほうも委託を出してございますので、そういったところでデジタル政策課がガバナンスを利かせながら、全体最適、障害者の方の動線とかも含めてですけれども、そういったコントロールをしていきたいと考えてございます。

○岩佐委員 まず富士見の出張所について、富士見に限らずではありますが、富士見が今度工事をやるわけですよ。そのときに、こういう、いずれこういう働き方改革の一環としてしっかりレイアウトも変えていくんですよというのが分かっているながら、今回の工事は対象外です。また、じゃあ5年後にまたやりますなのか。だったら、できることはやっておいたほうがいいんじゃないの、検討できることはしまししょうよ、としたほうが効率的なんじゃないんですかという話の一つと、それから、障害のある方に関しては、これはやっぱり当事者を企画段階で入れるというのは、これは本当に細かいことが本当に反映されますから、調整をしてくださっている方がいらっしゃるの理解しているんですけれども、その調整してくださる方が健常なのかそうじゃないのかでまた変わってくるものもあると思うので、そこをもう少しご配慮いただきたいということなんですけれども、そこをちょっと分かりやすくご説明いただければと思います。

○夏目デジタル担当部長 失礼しました。先ほど――富士見出張所のお話をまずさせていただきます。富士見出張所は実は早い段階でワークプレイス変革のパイロットとして、イメージからは離れる部分もありますが、大分先に既に終わっているというところになっています。

ご質問の核心部分は、恐らくそういう改修やなんかが予定されているところは、無駄に時期を分けるのではなくて、そのタイミングを生かして一緒にやったらどうかということだと思います。必ずしもぴたり合うケースばかりではないんですが、当然そういったなるべく無駄の少ない方法でやはりワークプレイス変革も進めていきたいというふうに考えております。

それから、2点目の、障害を有する方のご意見の反映ですね。ご意見いただきましたとおり、やはりメンバーに直接入っていただくということも可能性としてはあろうかなと思います。また、これまでの内部の話の中でも、やはりその検討メンバーに、係長とか、あ

るいは主任とか若手とか、いろんなメンバーいるんですが、例えば係長さんなんかのご意見を伺うと、やはり障害をお持ちの方に配慮するよなというようなご意見も頂いているところです。実際そういった意見が生で出てくるような検討を進めています。なので、今頂きましたご意見も踏まえまして、もし直接メンバーに入らないような場合にも、声を反映できるよな、そういった仕組みにして進めていきたいと思います。

○春山委員長 おのでも副委員長。

○おのでも副委員長 先ほど効果測定、定量判断はなかなか難しいというお話があったんですけども、離職率とかそういうので見ていただくのはどうかなというふうに思うんですね。離職率、1人当たりのワーキングスペースですとか、あとはコワーキングスペースがあるかとか、あとはもう若い方だとリモートワークがしやすい環境かどうかとか、そういったところでもう如実に表れてくるそうなんです、今、一般的にですけども。ですので、そういうところで見ていただくというのはいかがかなというところなんですけど、いかがですかね。

○齊藤デジタル政策課長 今のご指摘は大変ごもっともというか、受け止めたいと思ってございます。やはり選ばれる職場づくりということで、これから就職する世代に選ばれるということはもちろんのこと、今働いている方にも選び続けていただけるという、そういう職場づくりも大切かと思えます。そして、離職率で見るとというのは、大変、何というんでしょう、指標としては適切かなと思ってございますので、ぜひ取り入れたいと思ってございます。

○おのでも副委員長 6階を拝見させていただいて、すごく整頓はされているんですけども、やっぱりキャビネットが多くて、その上に物を置いてしまって、人が働くスペースが書類に圧迫されているというイメージがすごくあったんですね。ですので、ぜひどんどん進めていただければと私は思っています。

そんな中で、今回6階を先にやって、それで、4・5、2・3とやっていくかとは思いますが、今後将来的にいろいろ人の構成とかが変わって、部署の、何というんですかね、割り方が変わったりとか、そういったこともあると思うんですよね。あとフロアの移動とかそういったものも発生すると思うんですが、先ほどのPTメンバーの話で、フロアごとに決めていくというお話だったので、その辺の柔軟性というのはある程度意識して、レイアウト変更をされていくというようなイメージでよろしいんですかね。

○齊藤デジタル政策課長 現時点における検討は、あくまでも各フロア、今そこにある部署をどう最適配置していくかということになってございます。ただ、おっしゃるとおり、今後、今のフロア配置ですとか部署の割当てが永劫このままということではございませんので、変更があった場合には、例えば可動式の什器などの導入を今回目玉の一つに据えてございまして、働き方に対応して、そういったレイアウト配置ですとかというのは柔軟に今後も検討していきたいと思ってございます。

○春山委員長 ほかにございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○春山委員長 それでは、（２）ワークプレイス変革に向けたオフィス整備の実施についての質疑を終了いたします。

次に（３）基幹業務システムの統一・標準化の取組みに関する進捗状況について、理事

者からの説明を求めます。

○吉田情報システム課長 それでは、報告事項の（３）番です。基幹業務システムの統一・標準化の取組みに関する進捗状況について、政策経営部資料３に基づいてご説明させていただきます。

まず、基幹業務システムの統一・標準化とはですけれども、地方公共団体情報システムの標準化に関する法律に基づきまして、令和７年度までに原則全ての自治体において、ガバメントクラウドを活用した標準準拠システムへの移行を目指すとされているところでございます。

こういった標準化されたシステム、ガバメントクラウドを活用することでの想定されるメリットを示しておりますけれども、例えばですが、これまで制度改正、法改正等に伴いシステムを改修する必要が生じた場合には、今後、国が標準仕様書を策定または変更することで、これまで各自治体がどのように改修するか仕様等の検討をしてきたのが、国が一括してやっていただけるというところでの、対応の負担が軽減される見込みであります。また、ガバメントクラウドを活用することで、各自治体がサーバ等のハードウェア・OS・ミドルウェア・アプリケーション等のソフトウェアを自ら調達・管理してきた負担が軽減される見込みでございます。

３点目ですけれども、自治体が保有するデータの利用に当たりまして、これまでシステムごとに住民データを抽出・加工する調整が必要になっていましたが、データが標準化されることにより、円滑なデータ連携、抽出が可能となる見込みでございます。特にこのデータ連携に関しましては、国が標準化されたデータを利用目的の範囲内で編集、加工、活用先サービスに連携する公共サービスメッシュの基盤構築に取り組んでおります。区としてもこういった国の動向を注視しながら、データの連携、活用の可能性を研究していきたいと考えているところでございます。

続きまして、総合住民サービスシステムにおける取組みでございます。これまでの取組みに関しましては、国から示された標準仕様書に基づいて、現行システムとのFit&Gap分析を実施してきたところです。その結果としては、おおむね対応の方向は決定しているところでございます。また、令和６年度には国の早期移行団体検証事業に参画し、６年度に標準準拠システム移行に向けたガバメントクラウドの環境の整備、またガバメントクラウドまでの回線の敷設等を行っているところでございます。

続きまして、７年度、今年度の取組みの予定でございます。まず４月から６月で標準準拠システムのガバメントクラウド上への構築、またそのシステムへの仮データの移行ということで、こちらについては既に完了しておりまして、疎通確認もできている状況です。今、スケジュールどおりですので、今後の各課運用テスト等に入っていきたいと考えているところでございます。また、７月から９月には各課での運用テスト、また標準化対象外の外部システムとの連携テスト等も行っていきたいと考えているところです。１０月から１２月にはシステムの本番環境への移行のリハーサル、また本番データの移行なども予定しておりまして、この間でシステムを操作する職員全員の操作研修等を行っていきたいと考えているところでございます。

令和８年１月から本番環境のほうを稼働していきたいということが今の目標でございます。ただ１点、本番環境稼働を、コンビニ交付との情報連携の確認を行う必要がある



ことから、一定期間コンビニ交付が利用できない期間が生じる見込みがあります。この点について、詳細が分かり次第、総合窓口課とも連携しながら、丁寧に区民の皆様には周知に努めていきたいと考えているところでございます。

現在、スケジュールどおりに進捗しておりますが、今後、各種テスト等を通じて課題なども出てくるとされるため、各課、事業者とも連携を密にし、年度内の確実なシステム移行を果たしていきたいと思っております。

報告は以上でございます。

○春山委員長 説明が終わりました。委員からの質疑を受けます。

○米田委員 さっき課長からおっしゃっていただいたFit&Gapなんですけど、やったということで、おおむね決定したということで、そんな大きな差はなく、全て問題ないというところでよろしいですか。

○吉田情報システム課長 今のところの想定では、大きなGapはなく、ただ、今後の各課の運用テストの中で、実際、運用が適用可能かどうかというのは見極めていきたいと思っております。

また、システムのユーザーインターフェースが現行のものから変わったりしてきますので、業務の手順の流れなども変わるところがあるかと思っております。なので、職員の方が戸惑いも生じるおそれもあることから、できるだけシステムにさわる機会というものはきちんと確保して、研修などはしっかりやっていきたいと考えているところでございます。

○米田委員 ぜひ、操作のやり方が大きく変わる部分もありますので、その辺、大きな混乱がないようにしていただきたいなと思います。

で、6年度までは、これ、費用というのは大体国が負担していたと思うんですけど、7年度から地方自治体も負担するようになってきたと。前も私、本会議で質問させてもらったんですけど、千代田区はそうでもないけど、それなりに増えていると。今後の見込みについてもいろいろあると。ただし、地方自治体に見積り、しっかり精査して、そういったところも分析していかないといけないよという通達も出ていると思うんですけど、その辺の対応はどうされるおつもりですか。

○吉田情報システム課長 これまで、イニシャルの部分で言いますと、本会議でもご答弁させていただきましたが、約9.3億円かかって、現時点での国の補助金は4.6億円を見込んでおります。国のほうが6年度の補正予算で補助金の増額をしておりますして、今、総務省がこういった形で各自治体に配付するか、これ、今後調査するということは聞いておりますので、その辺の動向は見極めていきたいかなと思っております。

それから、令和8年度以降になりますと、完全にガバメントクラウド上での標準標準システムが稼働していくことになります。ほかの自治体も様々コストを減らすような取組とこのをやっているようには伺っております。実際の本番環境の中で、そういった他の自治体の事例ですとか先行団体の事例も持ち合わせていますので、そういうものを千代田区の環境にも適用していくことで、できる限り運用コストというものを減らす努力はしていきたいと考えているところでございます。

○米田委員 特別区長会でも国に対して申入れもしていると思います。そういったところもしっかり利用していただきたいなと思います。ただ、今後運用していく上で、物価の上昇とか賃金上昇とか、為替の影響をもろに受けることがあると思うんですよね。前に本会

議で言わせてもらったんですけど、千代田区は比較的財政に、他の自治体に比べてゆとりはあるとは思っていますけど、今後の変更に向けて、難しいですけど、基金の積立てとかそういったところをしっかりと調整していかないといけないと思うんですけど、その辺の考えはお聞かせいただけますか。

○吉田情報システム課長 今、様々情報システムに係る経費というのは大きくなっている。これは実際あるところだと考えております。ただ、一方で、毎年予算の概要に示させていただいております財政の見通しの中では、こういった状況も踏まえた中で、現行の、基金等を設置しなくてもできる状況ではあるということはお示しさせていただいているのかなと思っています。ですので、委員ご指摘のとおり、そういったシステムに係る経費、DXに係る経費は多くなってきていますので、そういった基金の設置に対する研究なんかもしつつ、必要なことはやはり国へしっかり補助金などを要望していくということも大切かなと思いますので、引き続き特別区長会、全国市長会を通じて、国への財政措置についての要望というものはしっかりやっていきたいと考えているところでございます。

○春山委員長 ほかにございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○春山委員長 はい。米田委員からのご意見にもあったように、大きく変化する時期ですので、国の動向をしっかりと注視していただきたいと思います。

それと、この、1点確認なんですけど、標準化の、進捗状況のご説明を頂いたんですが、これはあくまでもガバクラに移行するご説明ということで、20業務の標準化の後、並行してその他業務の標準化については、どのように検討されているのかだけご確認させていただきたいと思います。

○吉田情報システム課長 今、国のほうですと、共通化すべき業務システムの対象候補の選定に向けて検討を進めているというところは聞いていただいているところでございます。ですので、その状況を見ながら区への影響などを見極めていく必要があるのかなと考えているところでございます。

併せて標準化以外の、区の持っている標準化対象外のシステムにつきましても、例えばクラウドのほうに移行して、標準化されたシステムとの連携を容易にしていけるのかどうか。そういった点については、国の動きとは別に、区独自で研究のほうを深めていければと考えているところでございます。

○春山委員長 ありがとうございます。

よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○春山委員長 それでは、（３）基幹業務システムの統一・標準化の取組みに関する進捗状況について、質疑を終了し、日程２、報告事項を終わります。

次に、日程３、その他に入ります。

委員の方から何かございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○春山委員長 執行機関から報告事項はございますか。（発言する者あり）最後に、日程４、閉会中の特定事件継続調査事項についてです。閉会中といえども委員会が開催できるように、議長に申入れをしたいと思います。よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○春山委員長 それでは、本日はこの程度をもちまして閉会といたします。ありがとうございました。

午前11時41分閉会